

平成23年11月25日(金) 10:00～10:45 あすなろ教室 指導者 定光 俊郎

1 単元名 秋のことばあつめ

2 目標

- 秋にかかわる言葉に興味をもって、学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」を理解することができる。(知識・理解)
- 姿勢、用具の持ち方や、自分のめあてを意識して書くことができる。(技能)
- 「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて書こうとする意欲をもつことができる。(日常化)

3 指導計画(全7時間)

自立活動(2時間) 「秋と遊ぼう」

- 涼しくなってきた周りの様子から秋への変化を感じ取る。
- 秋から思い浮かぶ言葉をカードにまとめる。



国語科書写(全2時間)

第1時 集めた秋にかかわる言葉の中から自分の好きな言葉を選んで、試し書きをする。

第2時 「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて書く。(本時)



図工科(3時間) 「文字にふさわしいさし絵を入れよう。」

- 作品が引き立つように、さし絵を入れる。
- 消しゴムで自分の印を作って押すことで、作品として仕上げる。

4 指導上の立場

- 本学級における書写指導は、「言葉に興味をもって楽しんで書こうとすること」をねらいとしている。今までに取り組んできた「冬のことばあつめ」や「夏のことばあつめ」の学習を通して、その季節を感じることで身の回りにあるものや行事、食べ物、また自分の思いなどを言葉で表し、文字に書くことを経験してきた。
そこで本単元では、「秋のことばあつめ」をすることにより、これまでに学習してきた「とめ」「はね」「はらい」の既習の学習を意識して書くことができるようにしたい。さらに、「行の中心」をそろえて書くことで文字のバランスがとれることに気付かせ、日常でも意識して書くことを習慣付け、書くことの喜びや楽しさを感じ取ることができるようにするために本単元を設定した。
- 本学級の児童は、2年生、4年生、5年生の男児各1名の3名である。書写については、3人一斉指導で行ったり、内容によっては、2年生(硬筆)と4、5年生(毛筆)に分けて指導したりしている。3名とも「ひらがな50音」は正しく読むことができるが、単語や文章として読むことや漢字においては、筆順に気を付けて書こうとする意識は今少しである。根気が続かなかったり見通しがもてなかつたりするときには、気分転換をさせたり(あすなろゆったりタイム)、その時間のめあてを振り返ったりしながら学習を進めている。また、書写を単独に扱わず、生活単元的な学習を取り入れたり国語科の他の活動や他教科、領域等と組み合わせたりすることによって、文字に興味をもち、より楽しく学習できるように取り組んできた。

児 童	児 童 の 実 態
A児（2年生）	・自分の考えを文章に表現することは苦手であるが、発表するときは、表情豊かに大きな声ではっきりとすることができる。 ・五十音は何とか読んだり書いたりすることができるが、特に文字の大きさや画の「とめ」や「はらい」ができにくく、行の中心がねじれやすくなる。 ・気分がむらがあり、姿勢がくずれやすく、作業の途中で投げ出したり人を頼ってしまったりすることがある。
B児（4年生）	・文章を読んだり、書いたりすることが得意である。また、想像力を働かせ自分の思いを絵に表現することも得意である。 ・落ち着いてゆっくり書くと丁寧に書くが、急いで書こうとするために、文字が雑になったり行がそろわなかったりすることがある。 ・筆記具の持ち方が固定していなく、筆圧が弱く、「とめ」や「はらい」が安定しないことがある。
C児（5年生）	・漢字の書き取りや視写などでは、教科書をよく見ながら一字一字丁寧に書き、落ち着いた取り組みができるようになった。 ・文字の大きさや画の長さなどのバランスがくずれ、「とめ」や「はね」、はらいなどができにくくなり、行の中心がずれることがある。 ・授業中の姿勢や鉛筆、筆の持ち方は、自分で意識するようになり少しずつ良くなってきている。また、集中して取り組める時間も長くなってきた。

○ 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。

- ・用具の使い方や後始末の仕方、姿勢については、教科書や姿勢図などを利用してその都度注意を促していく。
- ・児童が見通しをもち、落ち着いて学習に取り組むことができるように学習過程をパターン化している。

あすなろ学級学習パターン

- ①学習に取り組むための自分のめあてを発表する。（学習に対する意欲付けと、落ち着いて取り組むための心構え）
- ②試し書きをする。（自分本来の力）
- ③本時のめあてを見付ける。（課題を明らかにし、上達のポイントなどの具体的なめあての確認）
- ④練習をする。（自分のめあてをもとに、自分に合った道具や用紙、方法で）
- ⑤あすなろゆったりタイム（児童の様子を把握しながら、実態に応じて気分転換をする。）
- ⑥まとめ書きをする。（めあてを振り返り、ポイントに注意しながら）
- ⑦評価する。（自己、相互、教師）

- ・個人のめあてをもつ段階では、手本と試し書きを比較し、シールを貼り視覚に訴えることで気を付けるところを意識できるようにする。
- ・練習する活動では、手や指先の巧緻性を養うために、なぞり書きプリントや水書用紙を使ったり砂文字を書いたりして準備体制を整え、落ち着いて取り組めるように工夫する。
- ・評価については、まとめ書きをした後に自分のめあてを振り返り、自己評価したり、3人で相互評価したりする活動を取り入れ、互いにがんばったところを認め合うことができるようにする。また、参観者にも評価してもらうことで、自分の良くなったところや注意するところを知り、書くことの楽しさや喜びを味わわせたい。
- ・書写の基本である「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて練習することで、平仮名や漢字にも共通していることに気付かせ、日常の書字活動に生かしていけるようにしたい。

5 本時案（第2時）

目 標	○「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて、ゆっくり丁寧に書くことができる。						
	○正しい姿勢や用具の持ち方に気を付けながら書くことができる。						
	A児（2年）フェルトペンを正しく持ち、「はね」「はらい」に気を付けながらまっすぐに書くことができる。						
	B児（4年）筆をしっかり押さえて、「はね」「はらい」に気を付けながらねじれずに書くことができる。						
	C児（5年）正しい姿勢で、「とめ」「はね」「はらい」に気を付けながら行をそろえて書くことができる。						
学習活動と予想される児童の反応		教師の支援		個への対応	評価（◇）	準備物	
		A 児	B 児	C 児			
1 本時の学習のめあてを知る。		・前時に試し書きした中から自分の一番書きたいことばをみんなに紹介することで、意欲付けをする。				試し書き	
(1) 集めたことばの中から、自分の選んだものを発表する。 ・「こおろぎ」 ・「やきいも」 ・「秋まつり」		・選んだ文字が読みにくいときは、教師と一緒に大きな声で、読むことができるようにする。 ・理由付けができれば、理由も言えるようにする。	・大きな声ではっきりと、理由付けをしながら発表できるように、教師がそばで言葉を掛ける。 ・自分が見つけた秋のことばの中で一番書きたいものを選ぶことができるようにする。				
		「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて、ゆっくりていねいに書こう。 ・自分の試し書きの「とめ」「はね」「はらい」に赤鉛筆で印をつけ、自分のめあてをもつことができるようにする。 ・「とめ」「はね」「はらい」をカードで確認する。					
(2) お手本と比べ、違いを見付ける。		・手本との違いを見付けることができるように、シールを準備する。					「とめ・はね・はらい」の説明カード 手本 シール
		・違いを見付けやすいように、できているところには◎シール、今少しのところには☆シールを教師と一緒に貼るようにする。	・手本をよく見て、どこの部分が違うかを見付けることができるようにする。 ・見付けにくいときは、教師が指で示したり助言したりする。				
(3) 自分のめあてをもつ。		・☆は気を付けたところだとよくわかるように、教師が言葉を掛け、本時のめあてをつかむことができるようにする。					

	・(こおろぎ)を「はね」「はらい」に気を付けながらまっすぐに書くように意識付ける。	・(やきいも)を「はね」「はらい」に気を付けながらねじれずに書くように意識付ける。	・(秋まつり)を「とめ」「はね」「はらい」に気を付けながら行をそろえて書くように意識付ける。	
2 練習をする。 ・上手に書きたいな。	・練習しやすいように、枠や中心線の入った用紙や砂文字などを準備し、自由に使えるようにしておく。 ・練習方法について説明し、自分のめあてに合った方法で練習できるようにする。 ・個別指導を行い、姿勢やよくなったところをほめることで、意欲を持続するようにする。 ・うまく練習が進まないときには、相談にのったり助言したりする。 ◇正しい姿勢や用具の持ち方に気を付けて書こうとしているか。(関／観察)			なぞり書きプリント 水書用紙 砂文字 練習用紙
3 まとめをする。 (1) まとめ書きをする。 ・めあてに気を付けて、がんばって書くぞ。	・落ち着いてまとめ書きができるように、「はね」「はらい」に注意してまっすぐに書くように言葉を掛ける。	・落ち着いてまとめ書きができるように、「はね」「はらい」に注意してねじれないように書くように言葉を掛ける。	・落ち着いてまとめ書きができるように、「とめ」「はね」「はらい」に注意して行をそろえて書くように言葉を掛ける。	まとめ書き用紙
(2) 作品を鑑賞し、比べ合う。 ・みんな上手だな。 ・めあてが守れているね。 4 次時の学習を知る。	◇「とめ」「はね」「はらい」や「行の中心」に気を付けて、丁寧に書くことができたか。(技／観察・まとめ書き) ・試し書きと比べて自分や友達の良いところを見つけ◎シールを貼ることで、がんばった喜びを味わうことができるようにする。 ・3人で相互評価したり、参観者にも評価してもらったりして、互いの頑張りを認め合うことができるようにする。 ・次時は、まとめ書きしたものにさし絵を入れることを知らせ、作品の仕上げへの意欲付けをする。			シール